

白髮明神考



特別
八 3
3111

和
1



松浦伯爵家文庫
樂歲堂圖書

庫名

部名

No.

函

No.

架

No.

號



白鬚明神考

源與清稿

白鬚明神シラヒケは比良神ヒラノカミ乃一名ナニなり。神社考国カニ花石葉記ハナシヅメ

倭漢三才ヤマト番會ハニ越エ遊行ユキ囊抄フクロ淡海ウチノミ式外シキ無位ムジ乃神ナニカミ

たりナリにニ諸モリ神社カミ鎮座チマ代考ト貞觀七年正月エマノシチノツキ

十八日ヤヒヤチヒ從四位下ヨロイを授タテマツらる。三代實錄諸モリ神社カミ記キ

鎮座代考チマト近江國志賀郡チカノクニノシハノ鷺川村サガハと高嶋タカシマ

近江輿地志チカノクニノチ

郡ノウチオロシ打下村サカヒの界サカヒに鎮座チンガし給ふ。近江輿チンガ地志チンガ 其

時代ハ祥ツヒコ々々。河正躰シヤウタイハ猿田彦大神サルダヒコノオホガミ

にて。神祇正宗カミヤマサムネ神社カミヤ啓蒙キモウ。国花万葉記クニハナマンヤクニ倭漢三才ヤマトコノハニミヤコ會カヒ越遊行ツヒコ囊抄フクロ和歌名所ワカナトコロ追考ツイコウ近江輿地志チンガ 聖武セウブ

天皇乃御宇カミノミコノミヤ老翁小現オウジュコゲン。良辨僧正ラウベンソウジヤウ小進コシユヂ

給ふ。石山寺イシヤマジヤウ縁起エンキ近江チンガ本地ホンチも不動明王フウドウメイオウなりと

い給ふ。縁起エンキ近江チンガ輿地志チンガ 慶安元年八月十七日ケイアンノトシノヤツノナナナニシツ。鶴

川村カワムラにて先蹤マキアト小從コシヤガひ神領カミノリヤウ百石ヒヤクイシと寄附ヨコヒ

たゞ。天台宗テウタイソウ福壽院フクジウインと別當職ワケトウシヨクに補ホせ

らる。越遊行ツヒコ囊抄フクロ因花万葉記インハマンヤクニ倭漢三才ヤマトコノハニミヤコ會カヒ和歌名所ワカナトコロ追考ツイコウ近江輿地志チンガ 社地ヤシロノトコロは

比良山下ヒラヤマノシタの湖邊路ミヅノヘノミチ乃左傍ノサカサヘなりて。社

も鳥居トリノイと共トモふ東方オモテと表オモテと。右傍ミカサヘ乃汀

に拜殿バイデンあり。本社ホンヤハ五間四面イツノマニツノヘ乃檜皮葺ヒノクニ

なり。越遊行ツヒコ囊抄フクロ 白鬚明神シラヒゲメイカミといふ名ナは之コノのふ

んえたるは。曾我物語ソウガモノガタリ比叡山ヒエノヤマより

乃事此系に。吾朝ひえいふのちもどきり
とてきくふ。天地もてにまかち。國いまじ
ちづゆらざる時。人壽二万歳とたを
ちけり。加葉尊者ハ西天に出世しけり。
大聖釋尊はそのけうをて得て。都率天
に住しけり。もてハ相成道の後。遺教流
布す地。いげ道の處ふり。ゆるべきとてふ

い。おの南瞻部洲を遍く飛行して。涉ら
んじけふふ。えんくむりくたる大海の
うへふ。一切衆生悉有佛性。如来常住。無
有變易。かく乃とくする波のこゑり。
おの波もゆらゆら。よひの國とけ
り。もて佛法を弘め。つうきりまじへ
る地たるべし。もて。かろ十万里乃

滄海を志のぼてゆく。葦の葉ひと川
うかびたる處ふ。此波をすの進ころぐまらぬ。
今の比叡山の物とも。大宮權現のねも
しきと波止土濃く進をり。されどもはや
波止り土濃たりとかけの。かくはらん
どねも。釋を法でに河がり捨ん。され
む河しき。わらう川國と中ねも。現

るも。此一葉の葦のゆゑとくや。日本吾朝
ハ葦の葉を長とる。そぞ中ねも。せぬ
らぞ。すえ。その後人壽百歳の時。悉陀
太子と生じて。八十年は春の比頭北面
西の時。抜提河の波と起え捨ん。そまど
も佛も常住ふ。して不滅をり。かど。無
縁法界の妙体も。わらう。捨ん。ねまらぬ。

い〜〜^{アシ}葦の葉の嶋とちり〜^{シマ}如きは
園と清ら〜^クける時。鶴鷄^{ツク}草菁^{ガヤフキ}不合^{アヘズ}尊^{ミコト}
の涉代^{ミヨ}も道^{ミチ}に。佛法^{ミヤウジ}の名字^{ナナジ}も人志^{ヒトシ}〜
あ〜〜^シや志^シ賀^カ浦^{ウラ}の如^ニ〜
に釣^{ツリ}もとる^ル老翁^{ラウオウ}あり。釋尊^{シヤクソ}うも^モ不^フ向^{キョウ}
て。翁^{オウ}〜^ニ此^{コノ}處^{トコロ}の如^ニ〜^ニ地^チと〜
於^オ得^{トク}とせよ。佛法^{ケツカイ}結界^{ケツカイ}の地^チとちり〜

〜^{オキナ}翁^{オウ}もた〜^ニ中^{ナカ}と〜^ニ
是人^{シヤク}壽^{シユ}六^{ロク}万^{マン}歳^{サイ}の如^ニ〜^ニ此^{コノ}處^{トコロ}の如^ニ
〜^ニ此^{コノ}水^{ミヅ}海^{ウミ}の七^{シチ}度^{タク}も〜^ニ葦^{アシ}原^{ハラ}の如^ニ
〜^ニも〜^ニ浦^{ウラ}さふ〜^ニ翁^{オウ}あり。〜^ニ此^{コノ}地^チ結^{ケツ}界^{カイ}とちり〜^ニ釣^{ツリ}次^ジる^ル事^{コト}如^ニ〜
〜^ニと。如^ニ〜^ニと〜^ニ釋^{シヤク}尊^ソの如^ニ〜
〜^ニ今^{イマ}ハ寂^{シヤク}光^{クワウ}土^ドにか〜^ニと〜^ニ

しふ時ふ。東方より淨瑠璃世界の教主
薬師如来。忽然と出まされし。善哉や。
もやく佛法をひろめたまへ。と道人壽
八万歳のもぐえり。此のわかれ
る。老翁いさむ。何ぞ此
のや。佛法をひろめ
たり。此山の守護とし。共ふ後五

百歳も。佛法を弘むべしと云ふ。二佛東
西ふり。その時の老翁今の白鬚
の大明神にして。けり。東方より
如来は中堂の薬師にして。も
と云ふ。太平記比叡山開闢事の条亦同
説。同書湖水涸事の条に。康安二年。近
江湖モ三丈六尺乾タリケルニ。様々ノ

不思議アリ。白髭明神ノ前ノ澳ニ。二人
シテ抱許ナル檜木ノ柱ヲ了ハヒ一丈
八尺ツ、立並べテ。二町餘ニ渡セル橋
見エタリ。古人ノ語り傳ヘタルヲモナ
シ。古キ記録ニモ載ズ。是ハ何様龍宮城
ノ道ニテゾ有ラント云沙汰シテ見ル
人日々ニ群集セリ。又竹生嶋ヨリ箕浦

迄水ノ上三里。瑪瑙ノ如クナル切石ヲ
廣ニ丈許ニ平ニ疊連子テ。二河白道モ
角ヤト覺タル道一通リ現ジ出タリ。是
モ如何様龍神ノ通路ニテゾ有ラント
テ。踏テハ渡ル人ナシ。只傍ノ浦ニ船ヲ
浮べテ見ル人市ノ如クナリ。此湖七度
迄素原ニ變ゼシヲ我見タリト。白髭明

神、大宮權現ニ向テ仰ラレケルト云、古ノ物語アレバ。左様ノ業原ニヤナラシズラント見ル人怪ミ思ヘリ云。江源武鑑。永祿五年九月十九日。白鬚大明神前海一町。石ノ鳥居ヲ顕ズ。同二十四日失云。此外ふも所見おほかる處。歌よは。正治二年。津百首。小侍従。

君が代ふあつとりの海をいくそまび田
につれづれの定め並らん。此多夫本抄に
ハ。四乃向業回よませ。同抄。小保
安元年。俊成ノ家。奇合。祝。法印。静賢。

海原のこまびく。同。よま。ま。み。く。人。ま。
ま。ま。君が。つ。世。の。正。徹。草。根。集。に。有。
に。お。の。海。の。浪。も。七。夜。何。を。い。つ。業。

系に月乃とむくん。松下集よ。延徳二年
六月朔日。阿弥陀寺にかへる。遠例しあ
ゆるほどふ。二三日逗留。祈禱のるふ一
首詠。正廣。

新いぞよやそぢにかる。老の岐み路とよ
とれ白髪乃神。立詮十題雜詠。白髪。

河一系とよりいへる。いふの海やそめい

ちうひも海を海うれ。此等みれ白髪明
神の故事とよみたるなり。とて此神は
人ふ壽福被授け。船をちりも。困苦を精
て娛樂を何へ。雷電の災を除け給ふ。
毎年八月五日と祭禮れ日とて。遠近の
老幼男女。系詣群集し。又庚申ねねとに
此神と祭ある家ねなりと好縁起

右白髮明神考一卷受

平戶城主肥州刺史君之命所撰進也

文政九年秋九月

高田將曹源與清謹識

